場所　被服室

第１学年６組　技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

授業者　安野　里枝

１　単元　「消費生活・環境　環境への配慮について考えよう」
～商品のパッケージから考える～

探究課題「50 年後も住みやすい刈谷の環境を守るために、できることは何か」

２　本時の指導

（１）段階　「活用」　２／３　時間

（２）目標

・企業や官公庁が行っている環境に配慮している取組を知り、学校や家庭でできる環境に配慮した行動を考え、実践したいという思いになる。　（「活用」に関わる目標）

（３）本時の指導展開

時間	学習活動	教師の手だてと支援
0	１　家で調べた環境に配慮したパッケージの発表を行う。 ・紙のパッケージの商品もあるのだね。 ・紙のストローはプラのストローよりも環境によいのだね。 ・リサイクルができる素材でできているのだね。	・環境に配慮したパッケージにはどのようなものがあるのか知るために、プロジェクターで、家で調べた商品のパッケージの発表を行う。
15	２　石油節約の商品パッケージを観察する。 ・トマトの絵が多いケチャップのパッケージの量が多く見え、トマトの絵が少ないパッケージの量が少なく見える。 ・Ｂ社の銀色のパッケージのお菓子は石油節約と表示してあるよ。お店で見たことがあるよ。	・同じ内容量でもパッケージの違いにより量が異なって見えることを体感するために、Ａ社の２種類のケチャップ（500ｇ）を提示する。 ・イメージしやすいように、Ｂ社の菓子のパッケージを提示する。
25	３　学習課題を確認する。 学習課題　50 年後も住みやすい刈谷の環境を守るために、できることは何か	
	４　企業・官公庁・学校の取組にはどのようなものがあるか考える。 ・C 社では、古着の回収をしている。 ・D 社では、マイボトル持参で値引きをする。 ・図書館・公民館・児童館・ショッピングセンターでは、クーリングシェルターを行っている。 ・学校では、蛍光灯よりも LED の照明の方が明るいし、長持ちして環境にもよい。 ・グリーンカーテンが被服室にあった。	**◎探求課題に迫ることができるように、「50 年後も住みやすい刈谷の環境を守るために、何ができるか」という視点を与える。** ・50 年前に行われていた環境に配慮する生活の例を紹介する。
35	５　学校や家庭生活に生かすために、何ができるか考える。 ・学校では、ごみの分別、給食完食、ペットボトルキャップのリサイクルに協力したい。 ・家庭では、ごみを減らす、３Ｒ、自転車や公共交通機関で移動する、冷蔵庫の開け閉めを素早く行う。	・学校や家庭生活で何ができるか考えるために、タブレットで調べたり、グループで話合ったりするように指示する。
45	６　振り返りを書き、発表する。 「マイ容器・マイバッグ持参での買い物をしたい。」	・学びを共有できるように、振り返りを発表する。

３　評価

・学校や家庭で具体的に実践できそうな環境への配慮を、考えることができたか。
（班での関わり合いの様子、ワークシートへの記述、振り返りの内容から判断する。）